

アズレン孕ませ出産小 話

ソットサス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

おっぱいのおつきいもちつちやいも関係なく、指揮官に孕まされて出産する話。
オリジナル設定を含みます。
後完全に性癖です。

目

次

1 イラストリアスとセントルイス

イラストリアス とセントルイス

「しきかんさまあ～～～んちゅう」 んちゅう

「しきかんく～～～んちゅう」 むちゅう

指揮官の寝室に2人のKAN—SENがいた、1人は白銀のツインテールと純白のふわふわのドレスに身を包み、もう1人は透き通った深い青のボニー・テールと青と白のピチピチのコスチュームに身を包んでいた。

名はそれぞれ、イラストリアス とセントルイス、2人とも指揮官の花嫁だ。

むちつ むちいと音が聞こえてくるような容姿の2人が、愛しのダーリンを正面から抱きしめている。

「しきかんさまあ～～今日もお疲れ様でした～～いつぱいいつぱいやすみましょね」

「お姉さんたちがあ～～とろとろ～あまあま～にとろけさてえ～ばぶばぶう～～て甘やかしてあげるわあ～～」

なでなで～～さわさわ～～ぎゅううう～～

「いっぱい辛いことありましたねえ～けど～～、もうだいじよ～～ぶ～～

「んうつ♡♡♡♡、よ～ちよ～ち♡♡♡♡、おじようずでしゅよ～～♡♡♡」

背面に回ったイラストリアス も腕をトレーナーの腰に回し、腰部の膨らんだ部分を解放させようとしている。

「んつしょつと♡、しきかんのあつあつオチンポさま♡♡♡♡、でてきましたよ～～♡♡♡♡、ガチガチでつらいですね～～♡♡♡♡、樂にしてあげます～～♡♡♡♡、そお～～れ♡♡♡♡しきこ♡♡♡しきこ♡♡♡」

シユツシユツ♡♡と荒々しい手つきではなく、柔らかく、優しく、保育園のお姉さんが、年少さんを導くように、すくすくと、撫でるように捌いている。

がりゆ♡♡♡♡かぶつ♡♡♡ペろペろ♡

「もうつ♡♡♡♡、噛んじやだ～め♡、いたいことすると、きらわれちゃうぞ～～♡♡♡♡、ん～そう♡、やさしく♡♡♡♡、女の子のこと考えられてえらいぞ～～♡♡♡♡、よしよし♡♡♡」

はむはむ♡と優しい甘噛みだつたのに、オチンポに加わる刺激によつてカラダが強張つてしまふ指揮官。優しくセントルイスお姉さんに女の子へのアプローチを教えてもらい、なでなでしてもらう。

「しきかんさまの♡♡♡♡、だんだんと、おおきく♡♡♡、熱く♡、かたくくなつてます♡♡♡♡、よしよし♡、ちよ～と♡、はげしく♡♡♡、してみますね♡♡♡

♡えいつ♡」

しゅこしゅこしゅこしゅこ♡♡♡♡♡しこしこ♡♡♡♡♡ぎゅつぎゅつ♡♡♡♡しゅつ

しゅつ♡♡♡♡♡

先程とは打つて変わつて早いストロークを繰り出すイラストリアス ママのおてて。純白のおててが赤黒いグロテスクな指揮官おちんぽをしゅつ♡しゅつ♡と捌く。イラストリアス ママは聖母の笑みと小悪魔の笑みを共に浮かべ、ザーメンタンクをにぎにぎ♡しながらはやくだせう♡と、催促する。

「しきかんくん♡、ピクピク震えてる♡♡♡、かわいい♡♡♡、もうつらいよね♡♡、いいよ♡だとしても♡♡♡、かつこよく射精できたら♡、よしよし♡したげるよ♡♡

♡♡」

「しきかんさま♡、もうだしていいですよ♡♡♡、パンパンでおつらいですよね♡♡、だいじょぶです♡♡♡、ママが一緒にお射精手伝いますから～♡♡、それ♡♡、ぴゅつぴゅつ～～♡♡♡

2人のママのあまあま～ことばに脳と腰がとろけて、指揮官は射精した。

びゅびゅびゅるるるうううう～～～～～～～～～～どくどくどううう～～～～～～～～～～

「えらいえらい♡、かつこいいですよ♡♡♡指揮官様♡♡♡、よしよし♡♡♡」

「よしよし♡♡、よく頑張ったね♡♡♡、ご褒美にい、ちゅうううううう～～～♡♡♡♡」
イラストリアスはおっぱいで指揮官の背中をぶるぶる撫でながら、先程まで指揮官のオチンポを捌いていた手をれろお♡♡♡と、なめとつた後よしよし♡と、頭を撫で始めた。

セントルイスはご褒美にとぶちゅうううううう～～～♡♡♡♡ととろとろのキスをプレゼントした。

「ふはあつ♡♡♡、もうお姉さんのおまんことろとろ♡のぐしょぐしょ♡、たまご工場もどくんどくん♡♡つていっぱいつくつてる♡♡♡」

「わたくしもつ♡♡♡♡、ふかふかシルクのあかちゃんベッド♡♡♡♡、しきかんさまとのあかちゃん専用のおねんね部屋♡♡♡、たくさんたまごちゃんといっしょに♡♡、おまちしていますう♡♡♡」

とろとろお♡♡♡と、愛液をだらだらと垂れ流しながら、仰向けM字開脚の構えで今が今かとご主人様のお帰りを待つ奥様マンコ♡♡、はやくママにして♡♡とおねだりする欲張りマンコ♡♡♡2人は優しく手解きをしあまあまセックスをしようとしていたが、それは指揮官によつて粉碎される。溶けた鉄を思わせるチンポでイラストリアスを

どつちゅゅうううううううんんんん♥♥♥♥♥

と、貫いた。

「お、お、お、おおおほお、お、お、おおおおおおお♥♥♥♥♥」
「えつ♥♥♥!うそつ♥、そんな♥♥」くちゅ♥♥くちゅ♥

普段の美しくも可愛らしい声とはかけ離れたブタのような声を上げるイラストリアス
ママ。一撃で陥落した聖母を見て怯えるセントルイス。

ばちゅつつ♥ばちゅつつ♥

「お、お、つほおつ♥♥、し、しきかん♥ひやまあ♥♥」

ばつすうんつ♥ばつすうんつ♥

「お、♥、おくう♥、えぐれ♥、なか♥ひつかかつてえ♥、だめえ♥」
ぼちゅつん♥ぼちゅつん♥

「だめえ♥、しきゅうう♥、おりてきちや♥だめえ♥」

ばつちゅ♥どちゅごりりいいい♥

「お、お、ぎよつひよおおおお、お、お、おおおおおおおし、しきゅ♥、オチンポさまと♥、ボコボコきしゅう♥」

遂に指揮官の肉棒がイラストリアスの赤ちゃん部屋を直接ノックした、あまりにも乱暴なお父さんの登場に、お部屋の中の卵はぶるぶると震えていた。

一匹の白い雌豚が絶叫を挙げて種付けされた。これが數十年前まで愛しの旦那様を
労る女神のような良妻だとは誰が信じるだろうか。そして、豚が孕む時が来た。

どくん・
どくん・
♡

「お、つ、お、お、お、お、？」

どくん・
どくん・
♡

「あ、あ、あ、あ、あ、あ、」

知能が著しく下がり、簡単な鳴き声しかあげられなくなつた哀れなイラストリアス
、がつしりと固めている旦那様に足をひくつ、ひくつとさせて、助けを乞う。

どくん・
どくん・
どくん・
どくん・
♡

「あ、あ、あ、あ、あ、あ、」

そして逃げ場を失つた女神卵子に一斉に精子が襲いかかつた。

ズ　ぶ　ぶ　ぶ　ぢ　ゆ　ぢ　ゆ　ぢ　ゆ　ぢ　ゆ　ぢ　ゆ　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う　う

とくん・
とくん・
♡

「お、ほ　お　はら　んみや　あ　ひ　つ　」

子宮をボコボコに殴られ、挙げ句の果てに卵子もボコボコレイプされて果ててしまつ
たイラストリアス。たつた一つの卵子に何匹もの精子が同時に入り無事、懷妊。白目
を剥いてえへえへとなくだけになつてしまつた。彼女をそこまで犯した犯人兼パパ

は次の獲物を見つけると直ぐに犯行に移つた。

「やつ、まつてえ、こんだなんてえ、たすけてえ」

余裕ぶつてたセントルイスママも指揮官のボコボコレイプを見て命乞いを始めた。

しかし、

どばつつつすうううううううんん

そんな弱々しい姿は、オチンポ様の勃起の糧にしかならなかつた

「おんぎよお、お、お、おおおおおおお、お、お、おおおおおおお」

「」

最初の一撃で子宮まで貫通したセントルイスはカエルのようにヒーヒーし始めた。

ばすん、ばすん

「しきゅ、とどい、でえ、ぎぐう」

どちゅん、どちゅん

「ダメえ、しきゅうのお、おくちい、ゆるんじやうう」

ぶぢゅつ、ぶぢゅつ

「きつ、きすう、しきゅうとお、つほお、オチンポおきす

してゆう」

ここで指揮官は腰の動きを変えて、捻つてこじ開けるような動きにした。

ぐりゅりゅりゅ、ぐりゅりゅりゅ、

「なつ、なに、これえ、まさかあ、」

「ごりりりりい、ぶほぢゆう、うううううううん」

「んお、お、お、お、しきゅう、があ、」

オチンポ様は雑魚子宮を問答無用でこじ開けた。口でザーメンをゴクゴクとさせず、そのまま直で孕ませるつもりだ。そろそろ限界が来てぶるぶる震える頃合いだ。

ぶるつ、ぶるつ、

「あ、あああ、たすけ、たえ、いらすとりあすう！」

セントルイスの呼びかけにイラストリアス はえへおほと間抜けな答えしかできなくなっていた。

ぶるるるるつ、ぶるぶるぶる

「お、おねがい、ですう、ま、ままと、おなかのこを、たすけてえ、くだひやい、ぱぱあ、たひゆけ、」

最後まで言い切る前に、パパは目の前の雌豚に射精した

どぼぼぼびゅびゅるるるるるるるるるるるるるるるるるる

どくどくどくどくどくどくどくどくどくどくどくどくどく

官専用のオナホ兼、ミルクサーバー兼、おトイレとして、一晩を過ごした。

10ヶ月後2人の出産予定日

「んつ♡♡、旦那様もヘンタイですね♡♡♡、この子達も困つてます♡♡♡んつ♡」

「ふうつ♡、こーんな風にパパと会つたら♡♡♡、お腹の子♡も、ヘンタイさんになつちやう♡♡、んひつ♡♡」

2人は以前と違い、イラストリアスはウエディングドレスを、セントルイスは銀色のドレスを着てお腹をぽつこりと膨らませていた。

エロ蹲踞の構えでポールに腕を絡ませ、産む体勢を作つていた。

公開出産セックスクスクアクメをするためだ。赤ちゃんがいる部屋を出産しながらボコボコに叩いてもらつて産みやすくして、2人で1人ずつ子供をぶつひいいい♡♡♡♡おんぎいいい♡♡♡♡♡と鳴きながらブリブリ♡♡と産む姿を愛しのダーリンに見せる。

「旦那様♡♡♡、イラストリアス♡♡♡♡、準備できました♡♡♡。」

「パパ♡♡♡、セントルイス♡♡♡♡、いつでもOKよ♡♡♡。」

以前と比べ少し黒味が増した秘部を見せる2人、そのグロテスクな入口のたつた30

数センチ先に愛の結晶が眠っている。

指揮官としてはどちらから犯しても別に良かつた、だから2人に耳打ちして、その結果を見て犯することにした。

「んつ♡♡♡♡、パパも♡♡♡♡、わるいひとつ♡♡、でも♡♡♡、いうこと聞いちやうわ
も♡♡♡♡。」

「このイラストリアス♡♡、旦那様のためならば♡♡♡、如何なる恥辱も♡♡♡♡、痛み
も♡♡♡♡、耐えますわ♡♡♡♡♡。」

そして2人に耳打ちした内容とは

クネつ♡♡♡♡♡クネつ♡♡♡♡♡

「だんなさまあくまでも♡♡♡♡、どうか♡♡、どうかあ♡♡♡、この卑しき白豚にい♡♡、
つよつよざくめんをお♡♡♡♡、ぶりゅぶりゅつてブツこいてくださいい♡♡♡、ママ
より先にい♡♡、赤ちゃんにい♡♡、ミルクのませてあげてくださいい♡♡♡♡、ざく
めんのませてあげて♡♡♡、パパだよりつて♡♡、教えてあげてくださいませえ♡♡
♡。」

「ごしゅじんさまあくまでも♡♡♡♡、おねがいですうくま♡♡♡、この淫乱青豚をお♡
♡♡、ばちゅうつ♡♡♡♡、ぼちゅうつ♡♡♡♡、つて中にいるあかちゃんもろともお
♡♡♡、犯してくださいい♡♡、子宮のなかあ♡♡♡、あかちゃんのおねんね部屋あ
♡

♡、ぜええんぶ♡♡、あなたの真つ白アツアツドロドロザーメンで埋め尽くしてえ
♡♡♡、赤ちゃん産むときにい♡、ザーメンお化粧してください♡♡♡」

もうすぐ母親になるというのにへこつ♡♡へこつ♡♡と腰をくねらせ、ぶしゅうう♡
♡♡と時折り潮を吹く2人、たつた1人のパパの寵愛を誰よりも受けたくて仕方がな
かつた。お腹の赤ちゃんにパパの素晴らしさを教えてくて仕方がなかつた。もぞもぞ
♡♡とお腹の中で動く愛し子もろとも犯してほしかつた。

そんな2人のママのおねだりを見た指揮官は、子宮まで届くほど高く槍を昂らせてい
た。そして、まず最初にセントルイスを犯すことにした。

ぐりゆりゆりゆりゆうううう♡♡♡♡♡ずつぶううううううんん♡♡♡♡♡♡♡

「はいってえ♡、きたあ♡」

以前のレイプのような挿入から一転、どこか母子を案じ、労るかのような優しい挿入
だつた。

「もうつ♡♡、おねえさんとパパのお♡♡、あかちゃんよおつ♡♡、ちつとやそつと
じや♡♡♡♡、ケガしないわ♡♡」

そんなセントルイスの甘い呼びかけにも、応じなかつた。

ぐつりゆりゆうううう♡♡、ぬつちゅううう♡♡♡♡

「しきゅう♡♡、ぱぱどちゅうしてわ♡♡、……あのこつちもちゅう、うむつ♡♡

「ねつ、はむつ、もつと激しく、パンパン、しよ、ゴリゴリ、子宮ほじつてえ」

「、産氣つげちやおつ」

すると、指揮官は

「ぱんつ、ぱんつ、ぱんつ、ぱんつ」

「んつ、きたあ」

少し激しく、それでも優しくお腹のあかちゃん部屋にノックし始めた。

「もぞつ、もぞもぞ」

「あかちゃんもお、うれしくってえ、もぞもぞしてるう」

赤ん坊が動き回るからお腹からもどう動いているのかはつきりと見ることができた。

「ぱちゅつ、ぱちゅつ、ぱちゅつ、ぱちゅつ」

「びきい、びききい」

「パパのお、膨らんでえ、あかちゃんにい、みるく、のませようどつ、
♡♡してるう」

「ぐりゅ、ぐりゅ、ぐりゅ、ぐりゅ、ぐりゅ、ぐりゅ、ぐりゅ、ぐりゅ、

「あつ、もう、だそと、してゆつ、おへやのいりぐちい、ねらいすま
してるう、あかぢや、とお、おかされりゆう、きてえ」

鈴口を子宮口に完全にファイットさせるため、ぐりぐり♡とほじつて。逃がさないぞ♡、愛してやるぞ♡、とねつとり♡追い詰めていく。

「あつ♡♡、ふくらんでりゅ♡♡♡、ぶるぶるふるえてりゅ♡♡♡、くりゅ♡♡、くりゅ♡♡、ぱぱがあ♡♡、みるくう♡、のませてくれりゅよ♡♡」

セントルイスは最後までラブラブ交尾だと思っていたようだが、そうではない。パパの方は最後の一撃は思いつきりやろうとしていた。赤ちゃんにもしつかりとアクメを刻んでやろうとしていた。

ぬちゅ♡ぬちゅ♡ぬちゅ♡ぬちゅ♡ぬちゅ♡

「きて♡、きて♡、きてえ♡♡♡」

最後の一撃、ぶるぶると震えるチンポを急に思いつきり抜いた。

ぬちゅちゅちゅうううううううううううううう

「ふえ♡?」

ばつっちゅううううううううううううん♡♡♡♡♡♡♡♡♡

思いつきり腰をぶち込むと同時に、セントルイスを抱きしめて、射精した。

「ぶびい♡♡♡♡♡♡♡!?

ぼびゆるるるうううううううううううううう!!♡♡♡♡♡♡♡ぼびゆぼびゆううううううう!!♡ばびゆつ
♡♡♡♡♡♡♡びびゆううううううつ♡♡♡♡♡ぼぶつ♡♡♡♡ぼぶうつ♡♡♡♡どびびゆるる

〜〜うつ!! ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ

「んもおおお、おお、お、つつ ヴ ヴ ヴ おほおつ ヴ ヴ お、お、お、おおおおおお

しつつ ヴ ヴ ヴ お、お、お、お、お、おつひい、い、い、いいいいい〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

快楽が濁流となつて溢れてきた。セントルイスは大きくのけぞり、快楽に身を震わせて
いた。視界は真つ白に点滅し、意識が飛んだり戻つたりする。そしてお腹の中の子供

も最初はビックリして泳ぎまわつていたが、今度はザーメンのお風呂に浸かると、気持
ちよくなつてぶるぶる震えた。ピンク色の吐息を出し、脳細胞の何万匹かを殺すアクメ
に天国へと連れてかれそうになるあわれなセントルイス。

以前でさえ爆乳だつたのに、さらに大きくなつた爆乳からミルクが噴水のようにป
しゅううううううううう〜〜〜〜〜と吹き出した。それに指揮官は吸い付いた。

むぢゅううううう〜〜〜〜 ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ごくごく ヴ ヴ ヴ

「もお、お、おおおお ヴ ヴ ヴ ヴ 、あかちゃんのぶん ヴ ヴ ヴ 、なくなつちやう、ううう〜〜
〜〜〜」

あまいあまいママのミルクを夢中で飲むパパ。とろとろした口溶けで、飲むたびに力
ラダが温まる。

ぶぴぴゆつ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ぬつっぽおおおおん ヴ ヴ ヴ

ぶぴぴゆつ ヴ ヴ ヴ ヴ ヴ ぬつっぽおおおおん ヴ ヴ ヴ

「おひつ♡♡♡、はあ♡はあ♡、えへへえ～～～♡♡♡」

どろろろおおお♡♡♡♡♡

滝のようにザーメンがこぼれ出る。

セントルイスは肩で息をしながら、ひゅーつ♡ひゅーつ♡と元の体勢に戻った。余韻で子宮の内と外がまだまだびくびくつ♡と震えていた。

「こんどは♡♡♡、わたし♡♡、ですね♡♡♡♡、旦那様♡♡」

へこつ♡♡♡♡へこつ♡♡♡と腰を振つて、旦那様チンポを焚き付け、ぬりぬり♡♡♡とおまんこに擦り付けるイラストリアス ママ

「がんばれ♡♡、がんばれ♡♡、おとーさん♡♡♡、お腹の赤ちゃんまつてるぞ～♡♡」

チアリーダーのようにリズム良く調子を取るイラストリアス ママ。トレーナーの男根はググツと元のサイズに戻つていき、びきつびきびきつとザーメンを再生産していく。

「準備い♡♡、できましたね♡♡♡♡、それではあ♡♡♡、おねがいします♡♡♡」

むつちりした腰を突き出して、甘くくっさい♡匂いで誘惑する。オチンポを迎え入れるためにむちゅつ♡とくつつける。それに応えたパパは
むりゆりゆりゆううううううううう～～～♡♡♡♡

と挿入した。

「お、お、お、お、お、おおおおおお～～～♡♡♡♡♡♡」

だらしない声で喜ぶイラストリアス。

愛しの旦那様にオチンポキスされてただただうれしくてしかたがない。子宮はすでに降りきつてねつとりラブラブ出産直前交尾を楽しもうとしている。

ぬちゅううう♡♡♡ぬちゅううう♡♡♡

「しきゅうと♡♡♡、おちんぽさまあ♡♡♡♡♡、キスしてるう♡♡♡♡♡♡」

このチンポで孕まされたんだぞ♡、このチンポがご主人様なんだぞ♡、と形をじつくりママに教え込むかのような動きで腰を動かす。

ぬりゆりゅうう♡♡♡ぬりゆりゅうう♡♡♡

「ほつ♡♡♡、ほつ♡♡♡、あかちや♡♡♡、なでてえ♡♡♡♡♡」

オツトセイのように鳴き、涙と涎を垂らしながらイラストリアス が赤ちゃんをなでろと嘆願する。

なでなで♡♡♡なでなで♡♡♡

すると、

もぞもぞ♡♡♡もぞぞつ♡♡♡

「んひつ♡♡♡、あかちや♡♡♡、うごかないでえ♡♡♡、なでないでえ♡♡♡♡、きもちよ♡♡すごい♡♡♡」

自分で頼んでおいて、この態度である。お腹の中の子は、素直に喜ぶのに、母親ときたらできない。だから指揮官は罰を与えることにした。

「ぬつぽおお♡♡♡♡♡♡」

「おひえ♡♡♡♡♡？なんでえ♡♡♡♡♡？」

チンポを抜いて、手で捌き始めた指揮官。

イラストリアス の正面でシコシコ♡し、もうお前のオマンコ使つてやんねえからなと暗に示す。

「そんなんあ♡♡、やだあ♡♡♡、イケないのやあ♡♡♡♡♡」

子供のように泣きじやくるイラストリアス ママ、手を拘束されているから自慰もできまい、ただあかちゃんがもぞもぞ♡するのと、壁に残る余韻に浸るしかない。

「ごめん、な、ざい、い♡♡、じぶんがつででえ♡♡♡、ごめん、な、ざい、い♡♡♡♡、ずなお、じやな、ぐでえ♡、ごめん、な、ざい、い♡♡♡♡、どお、があみすでないでえ
♡♡」

ここまでうるさいと仕方がないなあとなつてくる指揮官。それでも素直に許すのもアレだからと、壊していいか、と聞く。

「お、ねがい、じまづう♡♡♡、ごわ、じでもい、いがらあ♡♡、だめ、にな、つでもい、いがらあ♡♡♡♡、お、ねがいな、の、お♡♡、ごわ、じでえ、え♡♡♡♡」

した。

「おびつ♡♡♡♡♡、ベひつ♡♡♡♡♡、んぶふえ～～～つ♡♡♡♡♡♡♡」

頭の中はパパすきい♡だいすきい♡あいしてるう♡イクつ♡あかちゃんすきい♡きもちいいい♡うむつ♡あかちゃんうむつ♡とラブコールと快楽が大きな渦を作り上げて、理性を抉り取つていた。

そして、蕩けていた2人に出産の時が来た。

どくん… ♡どくん… ♡

「お、お、つ♡♡♡♡♡!?!じんづう♡♡♡きりや♡♡♡♡♡きもち♡♡い、い♡♡♡♡♡

♡つひい♡♡」

どくん… ♡ ぷつしゅうううううう～～つ♡♡♡♡♡♡♡

「ようすい♡♡♡、でたあ♡♡♡♡♡」

愛液とも精液とも異なるくつきあい♡羊水がぶつしゅうううう～～つ♡♡と間欠泉のように吹き出した。

どくん… ♡どくん… ♡ごちゅううう♡♡♡

「いぎい♡♡♡♡♡、あかちや♡♡♡、あたまあ♡♡♡♡♡、しきゆ♡♡♡、こおに、い

♡♡♡♡♡、あ、ででる、う♡♡♡♡♡、ごじあ、げよ、う、どじでる、う♡♡♡♡♡

♡」

指揮官のオチンポより太い愛の結晶が子宮を内側からこじ開けようとしている。場合によつてはショック死してしまつたり、出血多量で死んでしまうこともあるが、頑丈なKAN-SENには縁のない話である。それに、ご主人様によつて陣痛や出産時の痛みも全て快楽へと交換する様に調教されている。

めりい： ♪♪めりめりい： ♪♪めりめりい ♪♪♪

「あ、がぢや ♪♪、はやぐう ♪♪♪♪、はやぐでてえ ♪♪♪♪、お、ね、がい、い ♪♪♪、ん、ん、ぎい、い ♪♪♪」

ごりい： ♪♪ごりゆりい： ♪♪ごりりい： ♪♪♪♪するるう： ♪♪

「や、だあ、あ♪♪♪♪しきゅうに、い ♪♪も、どらないでえ ♪♪♪♪あ、ぞばないでえ ♪♪♪んぎい ♪♪んぎつぐう ♪♪♪」

赤ん坊の出産とは何度も赤ん坊が胎内で回転を出産に適した体型になるまで繰り返し、できるものだ。肩まで外に出ればズルツと産めるが、それまでが苦難の時だ。最も、2人にとって苦難なのは天国へ連れてかれるかのような快楽だが。

ごりゆつ： ♪♪、ごりゆりゆりゆつ： ♪♪♪

めり、より、よ： ♪ずばおおおつ： ♪♪♪♪

「ぶつつひいつ ♪♪♪♪、あだまつ ♪♪♪、しきゅ ♪♪♪♪ごおつ ♪♪♪、れだあ ♪♪♪」

め、り、より、より、より、よ…… ♡♡♡♡♡ごりりりい…… ♡♡♡

♡♡♡

「ほんきい、い、い、い、いいいいくつ!! ♡♡♡♡♡♡♡、ながつ♡♡♡♡♡♡ごり
ごりつ♡♡♡、ずら、れ、でる、う、ううく♡♡♡」

しばらくすると頭が見えてきた。2人とも膣はパパのオチンポに1年間ボコボコに耕されたお陰で拡張されていた。拡張されたオマンコはウォータースライダーのように、愛液とザーメン、羊水を垂れ流し、それを潤滑剤に赤ちゃんをぶりつ♡と産めるよう仕込まれていた。それでも、赤ん坊は大きく、ごり♡ごり♡と母親を内側から抉りながら出てこようとしていた。

「びいいつ♡♡♡びいいつ♡♡♡ぶう、う、う、う、ううううくつ♡♡♡♡♡、
びいいつ♡♡♡びいいつ♡♡♡ぶう、う、う、う、ううううくつ♡♡♡♡♡」

オットセイのような声でラマーズ法を行う2人のママ、全身をぶるぶる震わせ、腰はカツクンカツクン痙攣し、黒くなつた乳首からはびゆるるるくつ♡♡とミルクが噴水のようく吹き出し、口からは桃色の息が出て、身体中からはドロドロの雌液が漏れ出し、いきんだために、ぶびつ♡ぶびつ♡とおならをこいているだらしない姿を晒している。歯を食いしばり、涙を流し、涎を滝のように垂らしながら、ファイナーレを迎えるとしていた。

ごお、り、り、り、り、り、り、い♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡

「お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、う、まれり、ゆう、う
う、うううううううううう！」

2人とも赤ん坊の頭が見える状態にまで来ていた。あと少しでパパとママに対面で
きる。

ずりゅつ：
♡
♡
♡
♡

「あ、あ、あ、つ」

2人の赤ちゃんが同時に左肩を抜き出した。

ぬりゅつ：
♡
♡
♡
♡

「あ、あ、あ、つ」

今度は右肩を抜き出した、あとは自重に任せてぶりつと産むだけ。そして
ぶりつぶりつぶりつぶりりりつぶりりりりりつ？
「お、お、お、んぎい、い、い、いいいいい！」
じゅつっぽおおおおん♡♡♡♡♡♡♡

「ぽつひいいいいいいいいいいいいいいんんんつ！！！」

2人は赤ん坊を同時にひり出した。へその緒を子宮からぶら下げ、めくれ上がつて露出した子宮を晒しながらアヘ顔でオホオホ♡とよがつている。

指揮官はポールに拘束してある2人の腕を解放すると、蹲踞している2人に目線の高さを合わせて、頭を掴み、自分の顔に密着させた。

む、ぢゆるるるうううううううううううううう

2人によくがんばったなどご褒美のキスをして無理やり脳みそを叩き起こす。
「んつ♡♡♡ぷはあ♡♡♡、はあ♡♡はあ♡♡」

2人は意識を戻して、産んだ赤ん坊を抱えた。

「ふふつ♡、何て可愛らしいのでしよう♡、私たちの愛の結晶、とても温かくて、光り輝いて見えますわ♡、よしよし♡、ママでちゅよ♡」

「お姉さん♡、ママになれたのね♡、ふふつ♡♡、うれしい♡、指揮官くんに似てとおつても♡、可愛らしい子♡、ほおさら♡、ママのおっぱいでちゅよ♡、ばぶばぶ♡」
赤ん坊を見ると、すぐさま撫でて、確認する母親たち。その姿は、教会の聖母のステンドグラスのようにも見える。指揮官は持っていたハサミでへその緒を切ると、タオルで母子を優しく拭き始めた。

「旦那様♡、ありがとうございます♡、
これからも娘と一緒に愛してくださいね♡♡♡♡、どんな困難も私たち家族なら乗り

越えられますわ♡♡♡♡

「パパ♡、ありがとう♡♡♡、ちよつと乱暴でやんちゃなどもあるけど、優しくて大好きよ♡♡、この娘もパパに似てきつと優しい子になるわ♡♡♡」

拭き終えると、2人は赤ん坊に授乳を始めた。

「んっしょと♡、躓かないように♡、はい♡、ミルクですよ～♡♡♡、（ぐ）く（ぐ）く～♡♡」
「よいしょと♡、横抱きして♡、よちよち♡♡、ママのミルクでちゅよ～♡♡♡、ばぶ～♡♡」

♡♡」

愛し子の頭を優しく撫でながら、あまあま♡ミルクを飲ませていく。時折り、体勢がキツくならないように、微移動しながらあやしていく。

「ふう～♡、いいこいいこ♡」

「よし♡、いいこでちゅね～♡」

2人のママは近くにあるブランケットの敷かれた赤ちゃんベッドにそれぞれの子を寝かせると、指揮官に向き直って密着しながら正座し、両手をかざした。

「よくミルク我慢できましたね♡、こんどは旦那様の番ですよ♡」

「パパもママに甘えていいんだよ♡、いっぱいよしよししてあげるから♡」

2人の聖母が安息へと誘う。

指揮官は2人の膝へ頭を埋め、甘い女神の声と温もりに包まれながら眠りについた。